

実施日：6月5日～9日	
領域：(①教科()、②道徳(特別の教科 道徳)、③特別活動、④総合的な学習の時間)	
取組名：トライやる・ウィーク	
対象：2年生	実施場所：町内各事業所
<p>ア ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の方からかけてもらった言葉による自分の心情の変化に気づき、言葉かけの重要性について考える機会とする。また、活動を通して地域の一員としての自覚をもたせ地域が自分の居場所となるきっかけとする。 ・ トライやる・ウィーク後の学校生活の中で、自分が使う言葉を気にかけてながら円滑なコミュニケーションをとらせることで、トライやる・ウィークの学びを日常生活につなげたい。 	
<p>イ 指導内容（指導略案）や取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業所の方からかけてもらった言葉の中でうれしかった言葉を日々報告させる。その言葉を中心として、5日間の活動を通して成長したと思う部分をあげ、掲示物を製作する。自らの働き方（行動）が、気付かないところで人のためになることの喜びを実感させるとともに、自分の成長の一助となっていることに気付かせたい。自分がここまで成長してきた背景には、家族をはじめ地域の方も含めた多くの方の助けが不可欠であること、自分と周囲の人が互いに影響を与え合いながら生きていることを実感として学習させたい。[別紙②] ・ 子どもたちは中学校卒業後、生活の多くの時間を地域に置くことになる。学校でしてきたことを地域で行い生活していく力が必要となる。町の方との5日間の活動を通して地域の一員である自覚を再確認させ、地域で生きていくことの重要性や難しさを実感として学習させたい。さらに、地域の方にも我が町の子どもの様子について関心をもっていただき、相互作用としての子どもたちの成長の場としたい。 	
ウ 連携先：地域、家庭	
<p>エ 連携にむけての取組</p> <p>各事業所の担当者と教師の事前打合せにて、トライやる・ウィーク中たくさんの言葉がけを依頼した。褒めることだけでなく社会で働く際に必要となる言葉がけも遠慮なくかけていただくことを依頼した。</p>	
<p>オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ タブレットを活用して日々の活動報告をさせ、リアルタイムでそれぞれの観点別に集計、次の日の教師の動くに活用した。 ・ 事業所には複数回訪問し子どもたちの様子を見学するとともに、子どもたちの様子について直接話を聞かせていただいた。 ・ 活動後、活動の様子をパワーポイントにまとめ、活動報告会を開いて保護者、1年生、事業所の方々に報告した。 	
<p>カ 評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動報告会プレゼン ふり返りシート トライやるウィーク体験作文集 	
<p>キ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自信をもって取り組む姿が多くみられるようになった。 ・ プラスの言葉がけができるようになった子どもたちが多くなった。 ・ 地域での活動に積極的に参加するようになった。 	
<p>ク 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ トライやる・ウィーク後すぐの様子であったため効果は目に見えるが、1年後、さらには卒業間近になった際に効果を持続させることが本当の成果になるため、適宜地域とつながる経験や、言葉がけの重要性を確認する取組を行っていく必要がある。 ・ トライやる・ウィークに参加できなかった子どもたちに対して、地域とかかわりをもつ機会や家族以外の人と関わり声をかけてもらう経験を綿密に準備し、どんな子どもたちでも学校・地域・家庭で見守り、育てる体制を整える工夫が必要である。 	